

## あ と が き

本誌は総説1編，原著8編，症例報告3例，臨床報告2例，研究会報告3例と充実した号となった。また，巻頭言には当東京医科大学の姉妹校である東京薬科大学学長の山川民夫先生に「ある研究者の回顧」のご執筆を頂き，医学に対する真の姿勢に関してご教示頂いた。

現在の医学はオートメーション化された機器分析やコンピュータの使用が注目を浴びているが，医学の基本は人間を中心としたものでなければならず，医学の大発見は「ひらめき」からくる，と言うのは山川先生のおっしゃるとおりである。事実，自分の興味をもつことをこつこつと研究するということは，オートメーション化されつつある現代日本の医学界において忘れてはならない要素

である。昨日厚生省より認可のおりた光力学治療も，やはりアメリカ，ロズウェルパーク病院の T. Dougherty 先生の「ひらめき」を諦めずに辛抱強く応用してみた早田名誉教授，加藤教授のチームの努力の結果であると言って過言ではない。オートメーション化や telemedicine が爆発的に進歩している中で目先の業績にとらわれることなく，臨床応用できるかさえ定かでない先の見えない研究を続けてみる根と勇気と言ったものを大切にすべきであるという山川先生のすばらしい昌言を心に留め，医学の躍進に貢献すべきと痛感した。

(J. Patrick Barron 記)

### 幹事会 (要旨) (平成6年9月)

1. 第134回医学会総会のシンポジウムのタイトルは「同種臓器移植の現状と展望(Part II)ー現在東京医科大学でどこまで行われているかー」に決定した。  
特別講演：2件，シンポジウム演題：8件
2. 第135回医学会総会は，平成7年6月17日(土)に開催し，口演と展示を1日で行うこととなった。当番教室：病理学(2)，内科学(1)。
3. 編集状況の報告並びに編集について討議した。
4. 継続審議を行っている東京医科大学雑誌投稿規定改正(案)については53巻1号(平成7年1月1日発行)から適用することとなった。

### 編集委員会

渋谷 健 (会長)  
三浦 幸雄 (副会長)  
伊東 洋 (〃)  
岩根 久夫 (庶務幹事)  
小柳 泰久 (〃)  
内野 善生 (編集幹事)  
高山 雅臣 (〃)  
登坂 恒夫 (会計幹事)  
友田 燁夫 (委員)  
水野 文雄 (〃)  
一色 淳 (〃)  
白井 正彦 (〃)  
加藤 治文 (〃)  
斎藤 利彦 (〃)  
福武 勝幸 (〃)  
星加 明德 (〃)  
松岡 健 (〃)  
阿部 公彦 (〃)  
林 徹 (〃)  
J. Patrick Barron (〃)  
藤波 襄二 (監事)  
内田 安信 (〃)

平成6年10月20日 印刷

平成6年11月1日 発行

東京医科大学雑誌 第52巻 第6号

発行者 渋谷 健

発行所 東京医科大学医学会

(東京医科大学総務部企画調査課内)

東京都新宿区新宿 6-1-1

TEL (3351) 6141 (代)

印刷所 共立印刷株式会社

東京都中央区新川 2-23-9

TEL (3551) 9891 (代)